



MACの塾長ってどんな人・・・？

～塾長の田中先生が今までの人生で感じてきたこと～

毎月お送りしているこのMAC NEWSですが、それを書いているのはどんな人間なのかご存知ない方がほとんどだと思います。

実は以前も書いたのですがこの春よりMACの仲間入りをされた方も多いので、現塾長の田中が今までの人生で何を見て、何を考え、そしてそれがどのようにMACでの指導に繋がっているのか再度ご紹介したいと思います。

恩師の一言で
救われた小学生時代
(こんな感じでした)➡



P.153...

私の小学生時代は正直言って、MACの生徒たちに話せたものではありません(笑)

しんどいことや汗くさいことは大嫌い。全て避けて通っていた記憶があります。さらに3～4年生の頃に炭酸飲料とスナック菓子の美味しさを覚えてからは、気づけば学年トップクラスの肥満児に。確か高学年の頃、50m走のタイムは13秒でした。

いつも家でマンガを読みながら暴飲暴食を繰り返す日々を過ごしていたのです・・・。

「ねえ田中君、騙されたと思っ
てスポーツ始めてみない？」

5年生の時、担任の先生にこう声をかけられ、友達と一緒にバレーボールのスポーツ教室に通い始めます。すると徐々にスポーツの楽しさに気づき始め、中学入学後も「小学校でやっていたから」という軽い気持ちでバレーボール部に入部します。・・・が、これが後に大きな後悔へと変わります。

実は中学のバレー部は超強豪部で、毎日朝7時から朝練、頻繁にある合宿では夜の11時まで練習をするようなクラブだったので。(実は日本代表の高橋藍選手の母校です。私は高橋君のだいぶ年上の先輩です笑)

そんなことを知らずに入部した単なる元肥満児の私は、毎日毎日涙を流しながら「明日辞めるって先生に言う！！」と心に決めるも、

厳しく怖い顧問の先生にそんなことを言いだす勇気もなく、日々(嫌々ですが)練習に励んでいたのです。

結局辞められないまま先輩たちが引退を迎えると、私は新チームのキャプテンに任命されました。決して上手だったわけではなく、自分の代にあまり真面目なタイプがいなかったため、消去法で私になったけど後に顧問から聞かされましたが・・・(笑)

顧問の先生いわく「バレー部史上最弱世代」だった私たちは新人戦、春季大会と良い結果が残せませんでした。

厳しい顧問と不真面目(笑)なチームメイトたちの間に挟まれ、毎日悩み、毎日苦しんだのを今でも覚えています。ただ、この頃には不思議と「辞めたい」という気持ちは薄れていたように感じます。どうすればこのバラバラなチームが一つになるかな・・・それだけに一生懸命になっていました。(ちなみに、この頃には50mは6秒台になりました)

そして迎えた最後の夏の大会。今までの苦勞が報われたのか、春の大会で近畿ベスト8に入ったライバルチームを破り、見事京都3位に食い込んだのです。

引退する時、絶対にお世辞など言わない、怒られた記憶しかない顧問の先生に「田中は歴代キャプテンの中で最高のキャプテンやった。」と言ってもらったのが本当に嬉しく、逃げ出さずに頑張ってきた甲斐があったと感じました。

「教育」に興味を
持ち始めた大学時代

高校までは真剣にバレーに打ち込み、大学ではサークルでお遊び程度にバレーと付き合いながら、アルバイトとしてMACで4年間講師をさせて頂きました。

当時の塾長で、このMACの創業者である猪飼先生は、

「テストで点を取るための勉強なんかしていても意味が無い。勉強は社会に出てから困らないためにするもんや。」

と常に仰っていました。自分自身もMACに通っていましたし、講師としてもMACでアルバイトをさせて頂く中で、将来的には教育の道に進みたいと考えるようになり、大学で中・高の教員免許を取得しました。

そして教育実習中に、とても印象深いことがあったのです。

実習中は指導担当の先生以外にも多くの先生方にお世話になった

のですが、ある日、一人の先生がこんな質問をされました。

「なあ田中、先生の役割って何やと思う？」

その質問をされたのは柔道部顧問のF先生で、柔道界では非常に名の知れた方です。バレーボールを頑張っていた中学時代からこの先生と接点があった私は、この先生にとっても可愛がってもらっていました。

私はこの問いに対し、「しっかりと勉強を教えることですか？」というようなことを答えたように記憶しています。するとF先生は、

「違うな。先生の役割は勉強を教えるのと違って、勉強で教えることや。」

クラブもそう。僕は柔道を教えているのではなく、柔道で教えているんや。」

と、仰いました。この時の言葉には感銘を受けた記憶があります。しかし、その言葉は自然に、「すっ」と自分の中に入ってきました。それは、MACの理念と通ずる部分があったからです。

指導者の役割はただ単に勉強やスポーツの技術を教えるのではなく、それを通して人間性や生きる力を育ててあげることだと、この言葉で再認識しました。

大学卒業後、私はすぐに教員になるのではなく、一般企業に就職することにしました。社会人経験無しに教員になるよりも、先に社

会勉強をした方が良く考えたからです。

実を言うとこの頃の私は、未来ある子供たちを指導するという、責任ある教育の世界で生きていく覚悟がまだなかったため、一般企業に入って「このままでいい」と思ったらそのまま一般企業で、もし覚悟が決まったら教育の世界に戻ろう・・・と自分に猶予を与えていたというのが正直なところでした。

ただ、今となってはこの選択は大正解だったように感じます。

手紙を書いて就職が決定！？

私が就職活動をしていた時はいわゆる「就職氷河期」と言われた時代でしたが、ありがたいことに一部上場企業も含め数社から内定を頂きました。しかし、その内定を頂いた会社に行くことはありませんでした。(当時の人事担当の方々、本当に申し訳ありませんでした・・・)

実は別のある会社の最終社長面接で、

「僕は君を採用したいと思うが、うちが内定を出したら、必ずうちに来てくれるか？」

と言われた私は、「はい！」とっておけばよいものを馬鹿正直に「正直分かりません」と答えたばかりに、最終面接で落とされてしまいました。

最初にご縁が無かった・・・と考えていたのですが、後になって不採用になった会社の社長の考え方や企業としての理念が、自分の一番行きた